

Sony Music Foundation

(公益財団法人ソニー音楽財団)

〒162-0843 新宿区市谷田町 1-4 SME 市ヶ谷ビル 8F

TEL: 03-5227-5231 FAX: 03-5227-5232

<http://www.smf.or.jp/>

NEWS RELEASE

2013年10月22日

第12回 齋藤秀雄メモリアル基金賞 受賞者決定 辻本 玲 (チェロ) / 三ツ橋 敬子 (指揮)



2013年10月22日 東京にて行われた贈賞式

左より 岡 路子(当財団常務理事)、辻本 玲、堤 剛、三ツ橋 敬子、中鉢 良治 (当財団理事長) の各氏

公益財団法人ソニー音楽財団 (英文名称: Sony Music Foundation) [理事長: 中鉢良治] は、2002年 (平成14年) に、若手チェリスト、指揮者を顕彰すべく「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を創設しました。

この度、選考委員会において審議の結果、第12回 齋藤秀雄メモリアル基金賞 チェロ部門受賞者は辻本 玲 (つじもと・れい) 氏、指揮部門受賞者は三ツ橋 敬子 (みつはし・けいこ) 氏に決定し、その贈賞式が10月22日、東京「マキシム・ド・パリ銀座」にて執り行われました。

●選考委員会

永久選考委員 : 小澤 征爾 氏 (指揮者)

堤 剛 氏 (チェリスト)

任期制選考委員: 諸石 幸生 氏 (音楽評論家)

寺西 基之 氏 (音楽評論家)

奥田 佳道 氏 (音楽評論家)

●賞

・楯

・賞金 当該年毎に1名につき500万円 (総額1,000万円)

第12回 齋藤秀雄メモリアル基金賞

辻本 玲氏へ「贈賞にあたって」

堤 剛

辻本さん、この度はお目出度う御座居ます。最近の活躍には本当に目を見張らせられるものがあります。幼い時からアメリカで育ち、7歳からチェロを始めた辻本さんは、若い頃からメキメキと頭角を現し、東京藝術大学を首席で卒業する前から大きな注目を集めていました。私は実際に演奏を聴いたのは兵庫県養父市で催されているピバホールチェロコンクールでした。その後、国内のコンクールでも立派な成績を収め、アルト・ノラスとアントニオ・メネセスという素晴らしいも辻本さんに打って付けの2人の先生に巡り合え、海外で研鑽を積めたのも幸運だったと思います。そのうえ日本では、山崎伸子先生の厳しいご指導を受けられ、それがあってこそ今の辻本さんがあるのだと思います。また音楽家としてはソロだけでなく、日本が世界に誇るヴァイオリニスト＝音楽家、五嶋みどりさんの室内楽のパートナーとして実際の演奏を数多く経験できたのも貴重なことだったのではないのでしょうか。さらに弦楽四重奏という室内楽での定期的な活動に加え、サイトウ・キネン・オーケストラに可能な限り参加して、大先輩たちや仲間からもいい刺激を受けながらオーケストラ・プレイヤーとしての勉強もされてきました。また、『及川浩治トリオB e e』に参加するなど、枠に捉われない幅広い演奏活動にも取り組まれ、これらのすべてがソリストとしてチェロ協奏曲を演奏する時の辻本さんの力を更に高めることに活かされています。今後も、幅広い活動を続けながらも、努力、勉強、研究を怠らず、音楽家・演奏家として大きく羽ばたいていくことを期待しています。



「受賞の言葉」

辻本 玲

この度はソニー音楽財団より「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を頂くことになり、心より感謝を申し上げます。今まで支えてくださった先生方、共演させて頂いた先輩方、音楽仲間、そして家族に感謝の念の述べたいと思います。

今、私がチェリストとして携わっているクラシック音楽はヨーロッパに起源をもち、これまでの作曲家と演奏家によって代々傳承されてきたものです。和声法、記譜法、チェロそのものの奏法も、長い年月をかけて新しいものを追い求めるように良くも悪くも発展してきました。もともとクラシック音楽の土俵がなかった日本において、最近では子どもたちが当たり前のように習いごとでクラシック音楽を始め、それを教育する素晴らしい先生がいて、そしてクラシック音楽が職業となりうる地盤があって、それを喜んでくれる観衆がいます。このような現実があるのは本当に幸せですし、その背景のひとつには、やはり齋藤秀雄先生のクラシック音楽への情熱、そして献身的なご指導があったからだと思います。

私自身は残念ながら直接ご指導を受けることはできなかつたのですが、齋藤秀雄先生に師事された先生方に教えるを受けることができました。

特に東京藝術大学に通っていたときに師事した山崎伸子先生からは私の音楽の基盤となる核を教えて頂きました。ソロはもちろん、室内楽でのバスを担当するチェロの役割を通して音楽の仕組みや様式観を学び、それまでは音から感じるものをがむしゃらに弾いていた私に、クラシック音楽が再現芸術であること、演奏家はあくまでも作曲家と聴き手の媒介者であるという観点から、演奏家にとってのあるべき姿を言葉で、そして先生の音楽に対する姿勢によって示してくださいました。

卒業後は四年半の留学生活と演奏活動をする中でそのような課題を常に見つめながら音楽に接してきましたが、いつも親身になって相談にのって頂きました。芸術家、指導者として鑑のような存在で、今の自分があるのは先生のおかげです。また、7歳からチェロを始めて23年、たくさんの場所で勉強し、たくさんの先生にお世話になり、たくさんの音楽仲間と出会うことができました。その一つ一つの出会いが私の音楽を形成していると思います。これらすべての出会いに、あらためて感謝いたします。

この荣誉ある賞を頂くことができ、今までやってきたことが決して間違いではなかつたとの思いを強く感じております。そして今後もますます精進して誠実な音楽作りに専念し、いずれ齋藤秀雄先生のように後世に何かを伝えられるような存在になりたいと思います。



第12回 齋藤秀雄メモリアル基金賞

三ツ橋 敬子氏へ「贈賞にあたって」

小澤 征爾

齋藤秀雄メモリアル基金賞の受賞、おめでとうございます。

2010年に、私がサイトウ・キネン・オーケストラとカーネギーホールでブリテンの『戦争レクイエム』を演奏した際、三ツ橋さんは児童合唱の指揮で素晴らしい仕事をしてくださいました。カーネギーホールの高いところに子供たちを配置したので、三ツ橋さんには難しいことがあったと思いますが、結果は完璧でした。

三ツ橋さんは、音楽に対する姿勢がとても丁寧で、そこを私はとても尊敬しています。

若い指揮者にいつも言うことなのですが、指揮者というものは色々なオーケストラを渡り歩いて客演しているだけでは伸びないものです。一つのオケと一緒に、緻密に音楽をやっていく経験が何より大事です。

これからも良い音楽を作っていくてください。

三ツ橋 敬子氏へ「贈賞にあたって」

堤 剛

三ツ橋さん、お目出度う御座居ます。「齋藤秀雄メモリアル基金賞」指揮部門では女性として初めての受賞となります。女性であるという素晴らしさもありますが、それだけに変なこともあるのではと想像しています。それを克服され、ここまで来られ、大活躍されていらっしゃることに大変感心いたしております。

私自身は、子どものころから「子供のための音楽教室」でオーケストラの中で演奏しながら、指揮者の方々と一から一緒に勉強し、齋藤秀雄先生からご指導を受けてきました。齋藤先生は、楽器を演奏しながら指揮を教えてくださいました先生でしたが、先生の指揮に対する情熱や、その他たくさんのお話を教えてくださいました。指揮者の方々と一緒に勉強させていただくことで、先生の指揮や音楽に対する考え方を自分なりに理解できたのではないかな、と思っております。

これからももっともっと頑張る、女性として指揮者として活動の場を広げていければ、小澤先生の贈賞のお言葉にあるように益々素晴らしい将来が開けると思っていますし、この賞の受賞が少しでも今後へのステップになることを願っています。益々のご活躍を期待しております。

「受賞の言葉」

三ツ橋 敬子

この度は「齋藤秀雄メモリアル基金賞」という名誉ある賞を頂くこととなり、大変光栄に思いますとともに、心より厚く御礼申し上げます。

指揮者の道を歩みたいと、中学生の頃初めて手に取った齋藤秀雄先生の「指揮法教程」。なにか、とても厳かで尊いものに向かう旅の地図を手に入れたかのように興奮し、大切に頁を手繰り、少しでもその難解な中身を、そしてその向こう側にある世界の本質を欠片でも掴みたいと、無我夢中だったことを思い出します。私は残念ながら齋藤先生に直接お目にかかることの叶わなかった年代ですが、遍く種を蒔かれた齋藤先生の精神を受け継ぎ、それぞれの実を結ばれた、多くの素晴らしい先生方の教えを受けることができたのは大変幸せなことだと思っております。

殊に私どもの世代においては、国の内外を問わず、指揮のいわゆるテクニックの象徴として認識されることの多い「指揮法教程」ですが、門下生でいらした諸先生方によって、またそれに触れた多くの方々によって、その名著のさらに向こう側にある世界、音楽の真髄への新たな扉が開かれたという印象を、私自身は強く持つようになりました。時を経てもなお変わらないものと、より熟成されていくものの共存の中にこの名著と対峙できたことに感謝し、また、小澤征爾先生をはじめとする、真の音楽家の音楽への深い愛情に触れられたこと、その教えを受けられたえにしに感慨を深くしております。

指揮者という毅然とした夢を描き始めてまだ20年足らず、若輩者の私がこのような賞を頂くことはまことに恐縮ではありますが、真摯に音楽と向き合い日々勉強を重ね、賞の名に恥じない指揮者になる努力を続けて行く所存です。音楽家として、芸術の道に生きたいと願う一人の人間、一人の女性として、僅かでも常に成長を目指し、もがき続けて行くことで、いつの日かささやかながら新しい世代への糧となれるように、精進して参りたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。



受賞者プロフィール

辻本 玲 (チェロ)

Rei TSUJIMOTO, Cello



1982年愛知県生まれ。7歳よりチェロを始める。11歳まで米国フィラデルフィアで過ごし、東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業（アカンサス音楽賞受賞）。

2003年、第72回日本音楽コンクール第2位、併せて「聴衆賞」受賞。

2007年度青山音楽賞新人賞受賞。

2006年、2007年、ヴァイオリニスト五嶋みどり氏が主催する「Community Engagement Program」に参加し、世界各地で共演。みどり氏より「彼の演奏は、その音色が自然体でのびのびしており、音楽の大切な要素である LOVE が伝わってきます。これは、彼のパーソナリティそのものであり、それを伝達する技術を彼が持ち合わせているというほかありません」と賞賛された。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションより奨学金を得て、シベリウスアカデミー（フィンランド）、ベルン芸術大学（スイス）に留学し卒業。

2009年7月、サントリーホールにおいてチャイコフスキーの「ロココの主題による変奏曲」を演奏（秋山和慶指揮／東京交響楽団）。8月、Rendontres de Violoncelle de Belaye 2009（フランス）に招待された。12月、第2回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞（日本人最高位）、併せて「日本人作品最優秀演奏賞」を受賞。

（その模様はNHK-BSにてドキュメンタリー番組「チェロ・エスプレッシーボ！～国際コンクールに懸ける青春～」としてオンエアされた）

2010年8月、Fondazione Accademia Musicale Chigianaにおいて、アントニオ・メネセス、サルヴァトーレ・アッカルド等と共演。11月NHK-FM「気ままにクラシック」にゲスト出演。

2011年3月から京都コンサートホールを皮切りに札幌コンサートホールk i t a r a、名古屋宗次ホール、兵庫県立芸術文化センター、東京サントリーホールでリサイタル・ツアーを実施。

2012年2月、大阪ザ・シンフォニーホールにてドヴォルザーク「チェロ協奏曲」を演奏（山下一史指揮・日本センチュリー交響楽団）、名古屋・宗次ホールと東京・白寿ホールにてリサイタルを開催。

毎年夏にはサイトウ・キネン・オーケストラやアルカス佐世保のレジデンス・カルテットの一員として活動するほか、「及川浩治トリオB e e」へも参加するなど実力派として注目を集め、今後の活躍が期待される若手チェリストである。

これまでに、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団等と共演。メタ・ワッツ、オーランド・コール、川元適益、上村昇、山崎伸子、アルト・ノラス、アントニオ・メネセスの各氏に師事。

使用楽器は、NPO法人イエロー・エンジェルより1724年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを貸与されている。

オフィシャルサイト rei-tsujiimoto.com

三ツ橋 敬子 (指揮)

Keiko MITSUHASHI, Conductor



東京都生まれ。16歳より指揮を学び、これまでに指揮を小澤征爾、小林研一郎、ジャンルイジ・ジェルメッティ、エルヴィン・アツェル、ハンス＝マルティン・シュナイト、マーク・ストリンガー、湯浅勇治、松尾葉子、高階正光の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部指揮科、同大学大学院音楽研究科指揮専攻を修了。

2005年よりローム ミュージック ファンデーションより奨学金を授与され、ウィーン国立音楽大学に留学した。2004年よりイタリア・シエナのキジアーナ音楽院にてオーケストラ指揮を学び、特別賞奨学金を受け、最優秀受講生に贈られる名誉ディプロマを授与された。

2008年第10回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールにて日本人として、女性として初めて、しかも最年少優勝を果たした。併せて聴衆賞、アントニオ・ペドロッチ協会賞も獲得。東京藝術大学在学中より指揮活動始める。

2006年トスカーナ・オーケストラと全5公演を指揮し、ヨーロッパデビュー。これまでに、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団（イタリア）、トスカーナ・オーケストラ、ヴェネト州立パドヴァ管弦楽団、ボルツァーノ・トレント・ハイドンオーケストラなど多くのオーケストラに客演した。日本では、東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、群馬交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団（定期公演）、札幌交響楽団、京都市交響楽団、東京交響楽団、日本センチュリー交響楽団や仙台フィルハーモニー管弦楽団へ客演し、2009年より、小澤征爾音楽塾オーケストラ・プロジェクトIの日本・中国公演で、また、「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」にて小澤征爾氏のアシスタントを務めている。

2010年イタリア、パルマで行われたアルトゥーロ・トスカニーニ国際指揮者コンクールで、準優勝と合わせて聴衆賞を受賞。12月には小澤征爾指揮、サイトウ・キネン・オーケストラのアメリカ、カーネギーホール公演で、ブリテン作曲「戦争レクイエム」で児童合唱を指揮した。

2011年、イタリア・ボルツァーノのハイドン・オーケストラ定期演奏会で大成功を収めた。

現在、イタリア在住。

第12回 齋藤秀雄メモリアル基金賞

齋藤秀雄メモリアル基金賞について

公益財団法人ソニー音楽財団(英文名称:Sony Music Foundation)は、2002年(平成14年)に「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を創設しました。

この「齋藤秀雄メモリアル基金賞」はチェリスト・指揮者・教育者として高名な故・齋藤秀雄(1902-1974)氏に因むものです。

2000年3月17日に齋藤秀雄氏未亡人・齋藤秀子氏が90歳で逝去されました。

齋藤秀子氏の遺言公正証書第参条に「財団法人ソニー音楽芸術振興会(現・公益財団法人ソニー音楽財団)は、遺贈された財産で振興会の中に『齋藤秀雄メモリアル基金(仮称)』を設け、この基金により若手チェリスト、指揮者の発掘、育成を目的とした顕彰制度を実施して下さい。」と記載がありました。齋藤秀子氏から十数年前、同家の資産運用の相談を受けた当時の財団理事長・大賀典雄が同家の資産を買取った経緯があり、齋藤秀子氏の遺言に上記の文章が入ったものと思われます。齋藤秀子氏の遺言執行者である中央三井信託銀行から当財団に、306,483,968円の遺贈金が寄せられました。

当財団理事会、評議員会で審議の上、齋藤秀子氏の生前の希望により、大賀が小澤 征爾氏(指揮者)、堤 剛氏(チェリスト)とも協議した結果、この遺贈金は「齋藤秀雄メモリアル基金」として運用することになり、2002年度(平成14年度)から毎年度「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を授与することが決定しました。

2011年4月23日に選考委員長であった大賀典雄理事長が永眠したため選考委員長が不在となりましたが、後任は置かず、選考委員全員で選考の上、受賞者を選定し、理事会において決定しております。

当賞の内容は下記の通りです。

記

1. 名 称 「齋藤秀雄メモリアル基金賞」
2. 選考対象
 - ・音楽芸術文化の発展に貢献し、将来一層の活躍が期待される、若手チェリスト、指揮者。
 - ・チェリストと指揮者を各々1年に1人顕彰することを原則とする。
 - 但し、適切な該当者がいない場合は顕彰しない。
3. 選考方法 音楽関係者からの意見等を参考に、選考委員会で、選考委員が候補者を選出し、全員で選考の上、受賞者を選定し、理事会において決定する。
選考委員会は、顕彰年の上半期に開催することを原則とする。
4. 選考委員 永久選考委員： 小澤 征爾 氏 (指揮者)
堤 剛 氏 (チェリスト)
任期制選考委員： 諸石 幸生 氏 (音楽評論家)
寺西 基之 氏 (音楽評論家)
奥田 佳道 氏 (音楽評論家)
5. 賞
 - ・楯
 - ・賞金 当該年毎に1名につき500万円(総額1,000万円)
6. 受賞者発表時期、方法 顕彰時期を考慮して、当該年毎に適切な発表時期を定める。
受賞者はマスコミに公表し、当財団ホームページでも公表する。
7. 顕彰時期 当該年毎に適切な時期を定める。
8. 主 催 公益財団法人ソニー音楽財団 (Sony Music Foundation)
特別協力 公益財団法人サイトウ・キネン財団/サイトウ・キネン・フェスティバル松本実行委員会

第12回 齋藤秀雄メモリアル基金賞

【これまでの受賞者】

第1回 (2002年)	大野 和士 氏 (指揮)	植木 昭雄 氏 (チェロ)
第2回 (2003年)	広上 淳一 氏 (指揮)	古川 展生 氏 (チェロ)
第3回 (2004年)	沼尻 竜典 氏 (指揮)	チェロは該当者なし
第4回 (2005年)	アラン・ギルバート 氏 (指揮)	工藤 すみれ 氏 (チェロ)
第5回 (2006年)	大植 英次 氏 (指揮)	チェロは該当者なし
第6回 (2007年)	下野 竜也 氏 (指揮)	宮田 大 氏 (チェロ)
第7回 (2008年)	大友 直人 氏 (指揮)	横坂 源 氏 (チェロ)
第8回 (2009年)	指揮は該当者なし	遠藤 真理 氏 (チェロ)
第9回 (2010年)	キンポー・イシイ=エトウ 氏 (指揮)	長谷川 陽子 氏 (チェロ)
第10回 (2011年)	高関 健 氏 (指揮)	鈴木 秀美 氏 (チェロ)
第11回 (2012年)	山田 和樹 氏 (指揮)	石坂 団十郎 氏 (チェロ)

当賞に関するお問い合わせ先：公益財団法人ソニー音楽財団 (Sony Music Foundation) (担当=荒生 昌彦)
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 1-4 SME 市ヶ谷ビル 8F
Tel : 03-5227-5231 Fax : 03-5227-5232 E-mail:smf@sonymusic.co.jp